

令和3年度 全国学力・学習状況調査における 佐賀市の児童生徒の結果



「全国学力・学習状況調査」ってどんな調査？

■ 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善策に役立てる。
- 上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 調査対象

佐賀市立小学校第6学年、佐賀市立中学校第3学年

■ 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し以下のとおりである。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等

※ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

① 児童生徒に関する調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など

② 学校に対する調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(例) 授業の改善に関する取組、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査実施日

令和3年5月27日（木）

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生という限られた学年が対象であり、教科は今年度は、国語、算数・数学に限られています。したがって、ここに示しております結果につきましては、「**学力の特定の一部分**」であり「**学校教育活動の一側面を示すもの**」とご理解ください。

各学校では、「調査結果分析検討委員会」を組織し、学習状況調査の分析をしたり、考察と指導法改善の方策について協議をしたりしています。個々の学校の結果については、各学校のホームページを御覧ください。

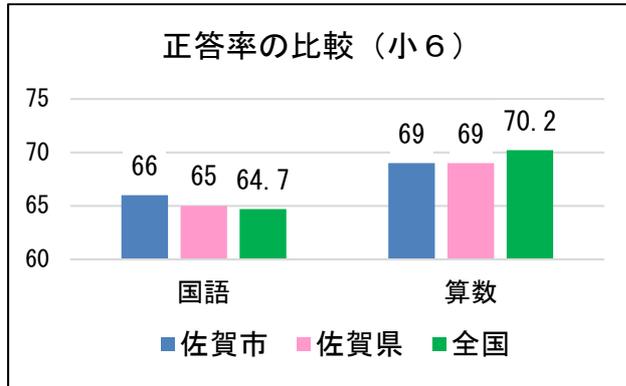
■佐賀市における調査対象

佐賀市立の小学校 35 校、中学校 18 校

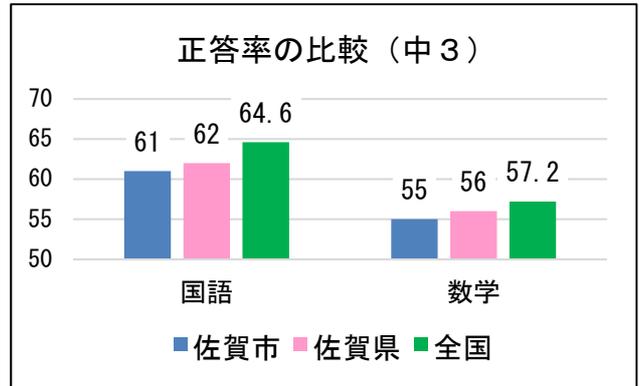


令和3年度の佐賀市立小中学校の児童・生徒の結果は？

①教科に関する調査



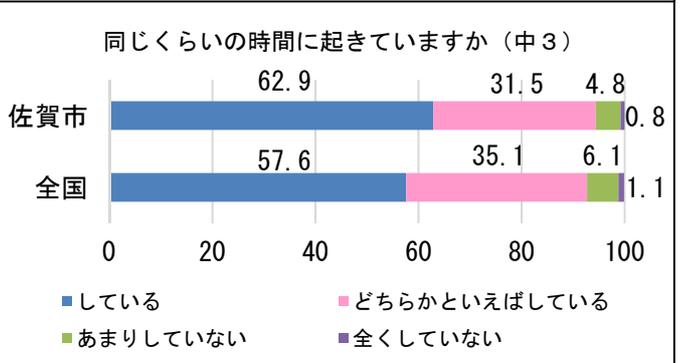
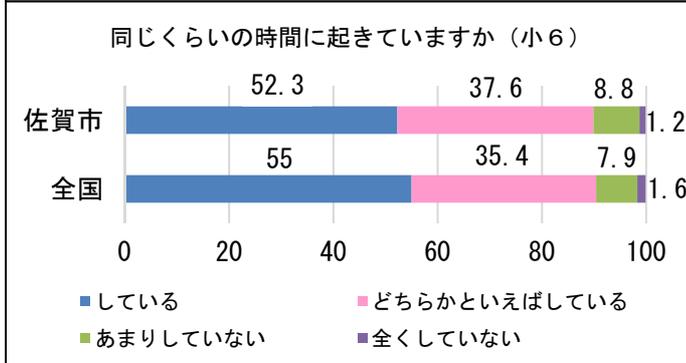
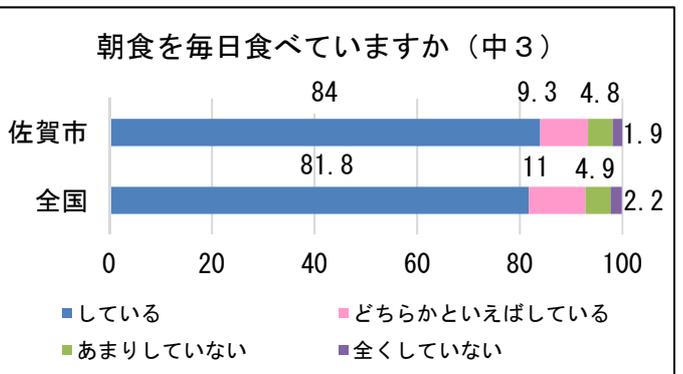
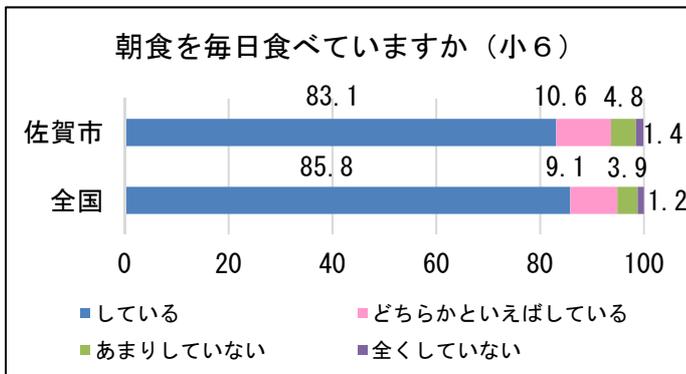
	佐賀市	佐賀県	全国
国語	66	65	64.7
算数	69	69	70.2



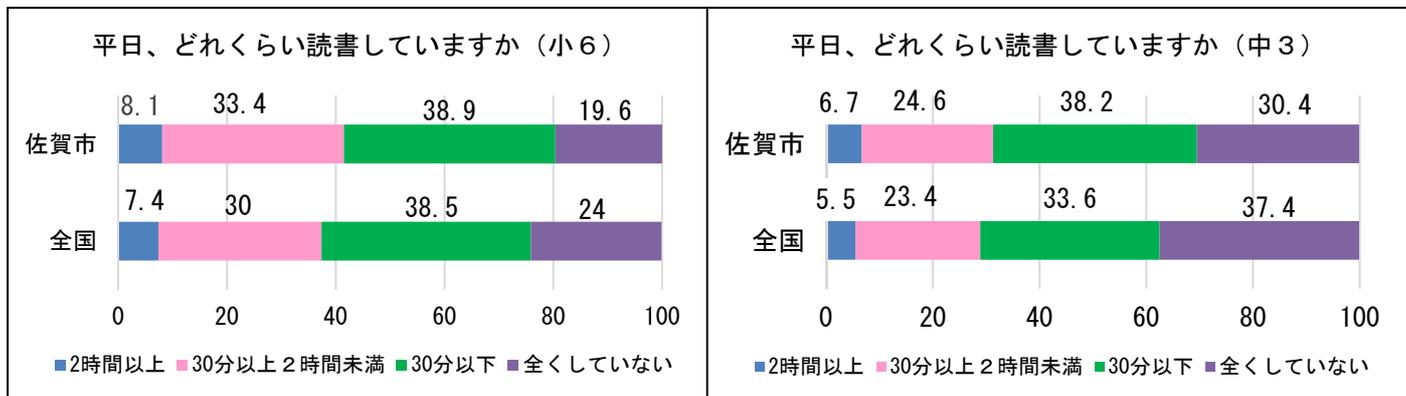
	佐賀市	佐賀県	全国
国語	61	62	64.6
数学	55	56	57.2

- 小学校6年生では、国語は、全国平均正答率を1.3ポイント上回っています。算数は、全国平均正答率を1.2ポイント下回っています。
- 中学校3年生では、国語は、全国平均正答率を3.6ポイント下回っています。数学は、2.2ポイント下回っています。

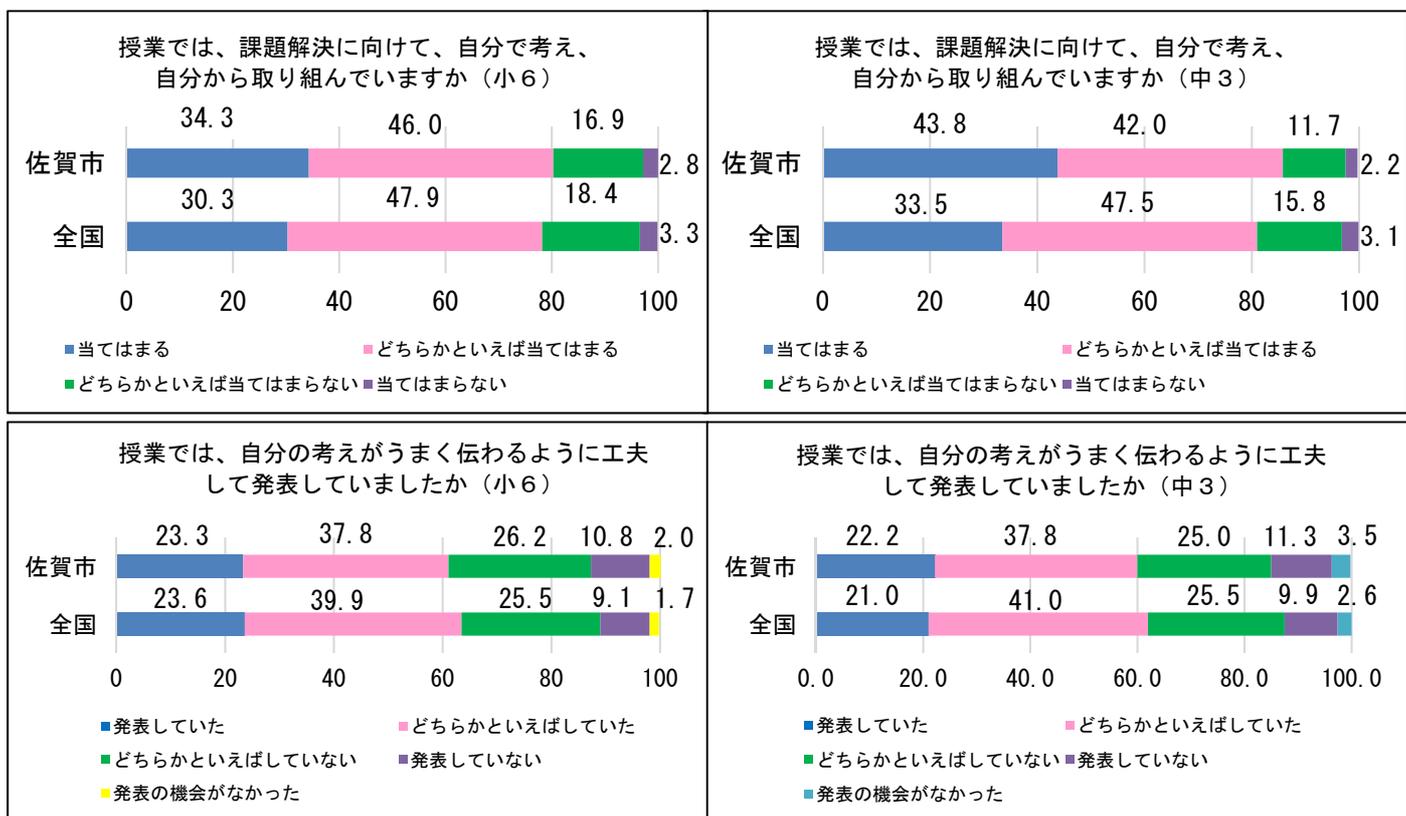
②生活習慣や学習習慣等に関する調査<児童生徒質問紙調査>



- 基本的な生活習慣（朝食と起床）の質問項目では、佐賀市の児童生徒は、全国平均とほぼ同等か少しよい結果でした。児童生徒質問紙と学力のクロス分析をみても、「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時刻に起きています」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向があります。今後も、家庭と学校が連携をして、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が身につくようにしていく必要があります。



○ 平日の読書時間は、佐賀市の小学6年生、中学3年生ともに全国平均よりも長く、読書量が多いことが分かります。また、読書を全くしていない割合も全国平均より少ないことから、学校や家庭での読書への啓発が功を奏していると考えます。また、児童生徒質問紙と学力のクロス分析をみると、読書時間が長い児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向がみられます。児童生徒の読書生活を豊かにすることは、学力だけでなく、人生を豊かにすることにもつながります。今後も、学校・家庭・地域で、読書活動を推進する取組を行っていく必要があると考えています。



○ 授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる、と答えた児童生徒は、全国平均よりやや高い傾向にあり、授業で児童生徒が、主体的に学びに向かっていることが分かります。また、授業で、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している、と答えた児童生徒は、全国平均よりやや低い傾向にあります。今後、学校においては、主体的な学びをより一層進めていながら、課題解決に向けて、思考したり判断したりしたことを表現する機会を増やしていくことが肝要であると思います。各教科の詳細につきましては、各教科ごとの分析をご参照ください。

○ 佐賀市教育の基本目標『ふるさと「さが」を協働でつくる個性と創造性に富む人づくり』に向けて、家庭、地域、企業等、学校等がそれぞれの役割を主体的に果たしながら、相互に連携・協働して将来にわたって夢と志を持ち、可能性に挑戦する児童生徒を育てていきたいと思ひます。

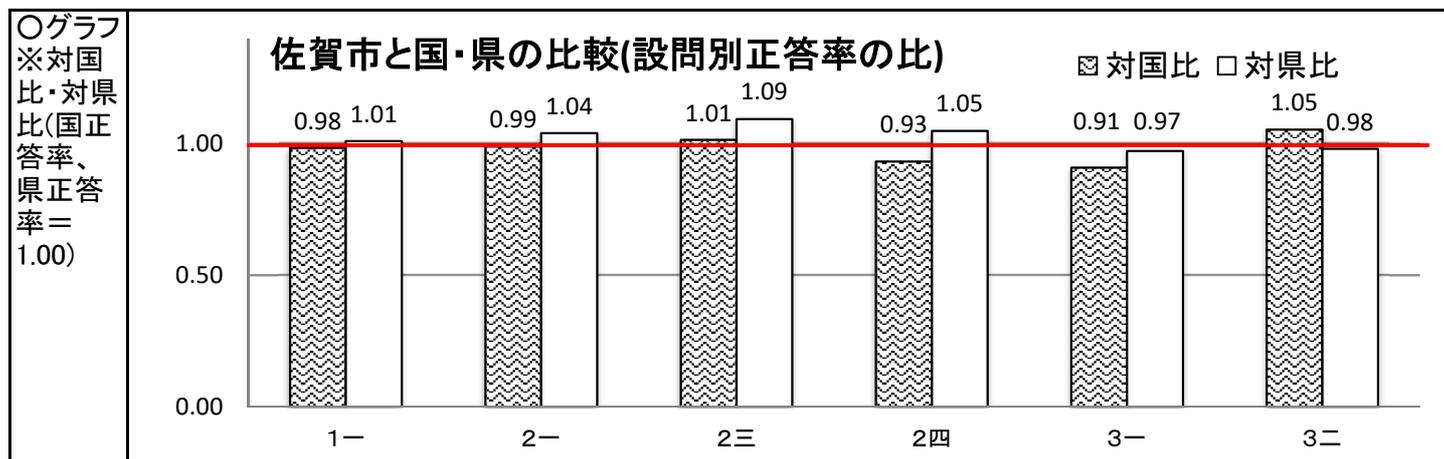
◆ 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果 《小学校・国語科》 ◆

■ 調査結果の概要

問題の結果																					
○全体	<p>小学校国語全体では、全国正答率64.7に対し佐賀市正答率は66.0であり、1.3ポイント上回っている。全14問中、7問で全国正答率を上回っている。</p> <table border="1"> <tr> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>66</td> <td>64.7</td> <td>1.02</td> </tr> </table> <p>※ 佐賀市の平均は整数値で示されています。</p>	佐賀市	全国	対全国比	66	64.7	1.02														
佐賀市	全国	対全国比																			
66	64.7	1.02																			
○評価の観点	<p>知識・技能の観点では、全国68.3に対し佐賀市は72.8であり、4.5ポイント上回っている。思考・判断・表現の観点では、全国62.1に対し佐賀市は61.2であり、0.9ポイント下回っている。</p> <table border="1"> <tr> <th>評価の観点</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>知・技</td> <td>72.8</td> <td>68.3</td> <td>1.07</td> </tr> <tr> <td>思・判・表</td> <td>61.2</td> <td>62.1</td> <td>0.99</td> </tr> </table>	評価の観点	佐賀市	全国	対全国比	知・技	72.8	68.3	1.07	思・判・表	61.2	62.1	0.99								
評価の観点	佐賀市	全国	対全国比																		
知・技	72.8	68.3	1.07																		
思・判・表	61.2	62.1	0.99																		
○内容・領域	<p>言語の特徴の領域では、全国68.3に対し佐賀市は72.8であり、4.5ポイント上回っている。話す・聞くの領域では、全国77.8に対し佐賀市は77.3であり、0.5ポイント下回っている。書くの領域では、全国60.7に対し佐賀市は59.2であり、1.5ポイント下回っている。読むの領域では、全国47.2に対し佐賀市は46.5であり、0.7ポイント下回っている。</p> <table border="1"> <tr> <th>学習指導要領の領域等</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>言語の特徴（知・技）</td> <td>72.8</td> <td>68.3</td> <td>1.07</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く（思・判・表）</td> <td>77.3</td> <td>77.8</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>書く（思・判・表）</td> <td>59.2</td> <td>60.7</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>読む（思・判・表）</td> <td>46.5</td> <td>47.2</td> <td>0.99</td> </tr> </table>	学習指導要領の領域等	佐賀市	全国	対全国比	言語の特徴（知・技）	72.8	68.3	1.07	話す・聞く（思・判・表）	77.3	77.8	0.99	書く（思・判・表）	59.2	60.7	0.98	読む（思・判・表）	46.5	47.2	0.99
学習指導要領の領域等	佐賀市	全国	対全国比																		
言語の特徴（知・技）	72.8	68.3	1.07																		
話す・聞く（思・判・表）	77.3	77.8	0.99																		
書く（思・判・表）	59.2	60.7	0.98																		
読む（思・判・表）	46.5	47.2	0.99																		
○グラフ	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>知・技(観点)</td> <td>1.07</td> </tr> <tr> <td>思・判・表(観点)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>言葉の特徴(領域)</td> <td>1.07</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(領域)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>書く(領域)</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>読む(領域)</td> <td>0.99</td> </tr> </table>	項目	対全国比	国語	1.02	知・技(観点)	1.07	思・判・表(観点)	0.99	言葉の特徴(領域)	1.07	話す・聞く(領域)	0.99	書く(領域)	0.98	読む(領域)	0.99				
項目	対全国比																				
国語	1.02																				
知・技(観点)	1.07																				
思・判・表(観点)	0.99																				
言葉の特徴(領域)	1.07																				
話す・聞く(領域)	0.99																				
書く(領域)	0.98																				
読む(領域)	0.99																				

■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
1 一	話す・聞く	思・判・表	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える	スピーチの内容だけでなく「スピーチメモ」からも構成を読み解くことができると気付くことや話の内容の構成を理解することに課題がある。構成に目を向けさせるためには、すぐに話す原稿を書くのではなく、話す目的や内容に応じて、構成を意識しながらスピーチメモをつくる活動に取り組みさせることが必要である。また、文末表現に注目しながら読むような場を設けることが必要である。
2 一	読む	思・判・表	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する	説明的な文章全体の構成を捉え、要旨を把握することに課題がある。説明的な文章を読む際に、それぞれの段落ごとやまとまりに書かれていることを整理したり、大事な言葉を落とさずに読み取ったりする活動や複数の文章を比較しながら読む活動を取り入れることにより全体の構成や要旨を把握したりすることができるような指導をしていくことが必要である。
2 三	読む	思・判・表	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけて読むことに課題がある。授業の中で、文章と図表を切り離し、資料の組み合わせを考える学習活動をすることで、関連付けて読む力を高める。次に、文章と言葉と図表の言葉を線で結び付けることで、視覚的に理解しながら、関係を捉えて読む力を高める。さらに、条件付きの文章を書かせる場を設けることも必要である。
2 四	読む	思・判・表	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	目的に合わせて文章全体から必要な部分を選び、要約することに課題がある。要約するためには、目的に合わせて、必要な部分と必要ない部分を選び、取捨選択しながら内容を端的に説明する活動が必要である。さらに、要約する文量を、五十字・百字・二百字など、目的に応じて内容を考えて要約するという活動を設けることも必要である。
3 一	書く	思・判・表	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。文章全体の構成や展開を考えられるようになるためには、「頭括型」「尾括型」「双括型」などの構成や展開を学習の中で経験しておいたり、それぞれの構成や展開の特徴を理解した上で作文をしたり、スピーチをしたりすることが必要である。
3 二	書く	思・判・表	目的や意図に応じて、理由を明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	目的や意図に応じて、理由を明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。まずは、自分の考えをもつという経験を積み重ねられる学習に取り組むことが重要となる。さらにその中で自分の考えに対してその理由を明確にし、考えと共に書くような学習を積み重ねることが必要である。



■調査結果の分析【指導改善について】

- (視点1)学んだことや自分の考えを言語化する言語活動を位置付けた学習の積み重ねについて
 今回の調査では「思考・判断・表現」の観点、特に「文章の構成を捉えること」や「目的に応じて、書き表すこと」に課題が見られた。日頃から様々な文章に親しんだり、目的や相手に応じた書き表し方を知ったり、自分の考えを言語化したりすることが必要である。そのために、学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、単元の中でねらう資質・能力を明確にし、言語活動を通した学習を位置付け、積み重ねていくことが重要となる。具体的には、目的に応じて材料を整理したり関係付けたりできるようにメモを書いたり、カードを並べ替えて構成を検討するような活動をしたことや、文字数や引用、資料など条件を設定した課題に取り組みせたりすることなどである。また、単元と単元のつながりを意識させたり、これまでに身に付けた資質・能力とこれから身に付ける資質・能力を関連付けさせたりしながら系統的な国語の力を自覚させていくことも大切である。
- (視点2)国語科における家庭学習や自主学習の充実について
 今回の調査では、スピーチの構成、文章全体の構成など、「構成」を捉えることに課題が見られた。意識的・意図的な学習を仕組まなければ、子どもたちは文章構成に目を向けにくい。そのため構成を捉える力を伸ばすためには、文章の構成に目を向けられる課題に取り組みせる必要がある。例えば、文章の構成を指定した日記や意見文に取り組みせたり、意図的に構成が決められた作文を書かせたりすることも有効である。また、読書を幅広いジャンルの本に広げたり、新聞を読んだりするなど、身の回りの様々な文章にふれさせていくことも、語彙を広げたり、自分の考えを形成することにつながっていく。このような家庭学習や自主学習を促し、その成果を発信できる場を学校で設けるなど、子どもたちが自ら学習していく環境づくりが重要である。
- (視点3)他教科と関連付けた指導
 今回の調査では、図表などの資料と文章を関連付けて読むことに課題が見られた。国語科だけでなく、算数科・社会科・理科などにおいても、資料から読み取れることについて、文章にまとめたり、説明したりする活動を設けると、活用力が高まる。また、他教科での学習活動の振り返りの中で、大切な言葉を使う、文字数の制限をするなど、条件付きで書く活動の場を設けることも効果的である。さらに、新聞記事を活動して、同じ出来事の新新聞記事でも、目的に応じて使う資料なども違うので、いろいろな記事を切り離して、その資料と文章の結びつきを考えさせることで、関連付けて読む力を育てることができる。さらに、多様なものの見方に触れて、賛成・反対意見など多角的・多面的に物事を考える力を高めることにもつながる。

■評価の観点については、以下のように表記しています。 ■内容・領域については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
知識・技能	知・技
思考・判断・表現	思・判・表

内容・領域	表記
言語の特徴や使い方に関する事項	言語の特徴
話すこと・聞くこと	話す・聞く
書くこと	書く
読むこと	読む

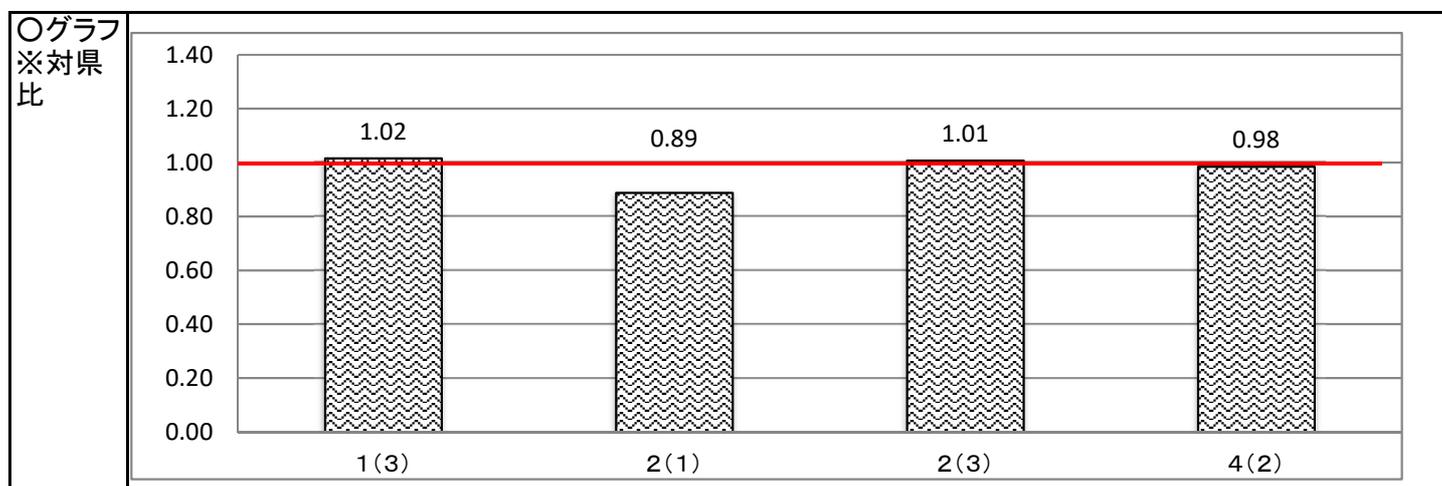
◆ 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果 《小学校・算数科》 ◆

■ 調査結果の概要

問題の結果																									
○全体	<p>佐賀市平均正答率は、全国平均とほぼ同等である。全16問中、全国平均を上回っているのは、7問であった。</p> <table border="1"> <tr> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>69</td> <td>70.2</td> <td>0.98</td> </tr> </table> <p>※ 佐賀市の平均は整数値で示されています。</p>	佐賀市	全国	対全国比	69	70.2	0.98																		
佐賀市	全国	対全国比																							
69	70.2	0.98																							
○評価の観点	<p>2つの観点とも、全国平均とほぼ同等である。</p> <table border="1"> <tr> <th>評価の観点</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>知・技</td> <td>73.0</td> <td>74.1</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>思・判・表</td> <td>64.5</td> <td>65.1</td> <td>0.99</td> </tr> </table>	評価の観点	佐賀市	全国	対全国比	知・技	73.0	74.1	0.99	思・判・表	64.5	65.1	0.99												
評価の観点	佐賀市	全国	対全国比																						
知・技	73.0	74.1	0.99																						
思・判・表	64.5	65.1	0.99																						
○内容・領域	<p>数と計算、図形、変化と関係領域では、全国平均をやや下回っている。測定、データ活用領域では、全国平均と同等またはやや上回っている。</p> <table border="1"> <tr> <th>学習指導要領の領域</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>A数と計算</td> <td>61.7</td> <td>63.1</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>B図形</td> <td>56.0</td> <td>57.9</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>C測定</td> <td>76.1</td> <td>74.8</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>C変化と関係</td> <td>74.7</td> <td>75.9</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>Dデータ活用</td> <td>76.1</td> <td>76.0</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	学習指導要領の領域	佐賀市	全国	対全国比	A数と計算	61.7	63.1	0.98	B図形	56.0	57.9	0.97	C測定	76.1	74.8	1.02	C変化と関係	74.7	75.9	0.98	Dデータ活用	76.1	76.0	1.00
学習指導要領の領域	佐賀市	全国	対全国比																						
A数と計算	61.7	63.1	0.98																						
B図形	56.0	57.9	0.97																						
C測定	76.1	74.8	1.02																						
C変化と関係	74.7	75.9	0.98																						
Dデータ活用	76.1	76.0	1.00																						
○グラフ	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>対全国比</th> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>知・技(観点)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>思・判・表(観点)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>数と計算(領域)</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>図形(領域)</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>測定(領域)</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td>変化と関係(領域)</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>データ活用(領域)</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	項目	対全国比	算数	0.98	知・技(観点)	0.99	思・判・表(観点)	0.99	数と計算(領域)	0.98	図形(領域)	0.97	測定(領域)	1.02	変化と関係(領域)	0.98	データ活用(領域)	1.00						
項目	対全国比																								
算数	0.98																								
知・技(観点)	0.99																								
思・判・表(観点)	0.99																								
数と計算(領域)	0.98																								
図形(領域)	0.97																								
測定(領域)	1.02																								
変化と関係(領域)	0.98																								
データ活用(領域)	1.00																								

■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
1 (3)	変化と関係	知・技	速さを求める除法の式と商の意味を理解している。	全国平均を3.3ポイント下回っている。単位量あたりの大きさについて、計算で求められている商の意味とその比較について誤答が見られた。原因として、「道のり÷時間で求められているのは分速であること」、また、「商の数値が大きいほど、1分間あたりに進む距離が長く、速さが速いこと」の理解ができていないことが考えられる。計算で求めた商の意味をしっかりと理解することが課題である。
2 (1)	図形	知・技	三角形の面積の求め方について理解している。	全国平均を5.1ポイント下回っている。面積の公式を使って三角形の面積を求めることに課題がある。原因として、3点考えられる。1点目は、三角形と平行四辺形の公式の使い分けができていないことである。2点目は、三角形の公式「底辺×高さ÷2」は分かっているが、底辺と高さの場所を選べていなかったことである。3点目は、すべての辺の長さが分かっていることで、多くの情報の中から必要な情報を選択することができていないことが分かった。
2 (3)	図形	思・判・表	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。	全国平均を2.8ポイント下回っている。平行四辺形の面積を求める際の高さを誤って捉え、そのまま公式を用いて、面積を求めたという誤答が多く見られた。本設問では、平行四辺形を求める公式を用いるために必要な情報が直接は示されていないため、組み合わせる二等辺三角形を構成する要素に着目し、正しい高さを見いだす必要があった。つまり、図形を構成する要素に着目し、必要な情報を選択する力に課題が見られた。
4 (2)	数と計算	知・技	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。	全国平均を3.7ポイント下回っている。8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分の量を求める式と答えを書く問題で、二つの数量の関係を捉えて式に表すことに課題が見られる。計算間違いは少なかった。商が1より小さい場合の除法について、問題場面を把握するために数量の関係を図に表したり、計算結果を基に問題場面に戻ってその答えが正しいのか判断したりすることができていないことがわかった。



■調査結果の分析【指導改善について】

○【図形領域の指導】

佐賀市の正答率は、4領域「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」「データ活用」の領域別に見ると、「数と計算」「図形」領域において、全国の正答率を下回る結果となっている。なかでも、「図形」領域においては、約2ポイントも差が出ている。

①数学的活動

図形の学習において、図形概念の形成と基本的な図形の性質を理解させるために、図形を構成する要素などに着目して、図形の性質を見つけたり、説明したり、作図したりする活動を積極的に取り入れていく必要がある。また、図形領域のねらいの一つでもある図形についての感覚を豊かにするために、操作的な活動をする中で、図と式と言葉を関連させた学習を仕組んでいくことがより重要だと考える。

②数学的な見方・考え方

算数の学習においては、算数科の特質に応じた数学的な見方・考え方が重要な役割を果たす。どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考をしていくのかといったことを意識して学習を仕組むことが大切である。

課題が見られた問題において、図形の構成要素に着目して図形の性質を理解したり、計算で面積を求めたりすることができていなかった。与えられた図形の構成要素を自ら判別し、問題を解決していくような授業を組み立てていくことがこれから求められる。

○【単元構成の工夫】

資質・能力の柱の一つである、生きて働く「知識・技能」の習得とは、他の学習や生活場面でも活用できるような確かな知識及び技能である。この資質・能力を身につけさせるためには、日常生活や社会の事象を数理的に捉えて数学的に表現・処理し、問題を解決するといった学習後、習得したものを活用するといった単元構成の工夫が必要である。例えば、単元の導入で買い物場面を設定したり、学習後に生活科や総合的な学習、日常生活と関連させた問題を設定したりすることで、数学のよさや楽しさに気付き、算数で学んだことを活用しようとする「知識・技能」の育成につながると考える。

○【思考・判断・表現力の育成】

全国的にも佐賀市においても、自分の考えを説明したり記述したりすることに苦手意識をもち、筋道立てて表現することが不十分である。特に、情報過多の問題では、示された表やグラフ等の中から必要なデータを読み取ることができず、特徴や傾向をつかんできちんと記述することができていない。また、筋道を立てて考えたことやその理由を順序よく表現することに課題が見られる。

このような課題に対して、日頃の学習において児童の考えを他者へ表現し、よりよい表現の仕方を身につけていく学習が重要となってくる。さらに、これまでも重視されてきた学習過程の中に対話的な学びを位置づけ、二人やグループでの交流活動を仕組むことが大切である。思考したことを表現する過程の中で、思考の再構成を図ったり、他者からの考えで思考の幅を広げたりして学びを進めることこそが、資質・能力育成の早道である。

○【主体的な学び】

教師主導の授業スタイルから、児童が主体的に学ぶ授業スタイルへの転換を意識することが重要である。

そこで、まずは、学習問題を工夫し、児童の学習意欲を喚起していくことが鍵となってくる。具体物を提示して知的好奇心を高め、学習への問いを持たせる等の工夫をしていく必要がある。次に、学習課題を解決していく際に、半具体物を使ったり、図をかいたりする等の数学的活動を伴う自力解決が大切となる。実際に操作して試行錯誤させ、思考させることが能動的な学びへの誘いとなる。

このような、解いてみたい！自分で解決して楽しい！と思わせるような授業の構築を心がけていくことが重要であると考える。

■評価の観点については、以下のように表記しています。 ■内容・領域については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
知識・技能	知・技
思考・判断・表現	思・判・表

内容・領域	表記
数と計算	数と計算
図形	図形
測定	測定
変化と関係	変化と関係
データの活用	データ活用

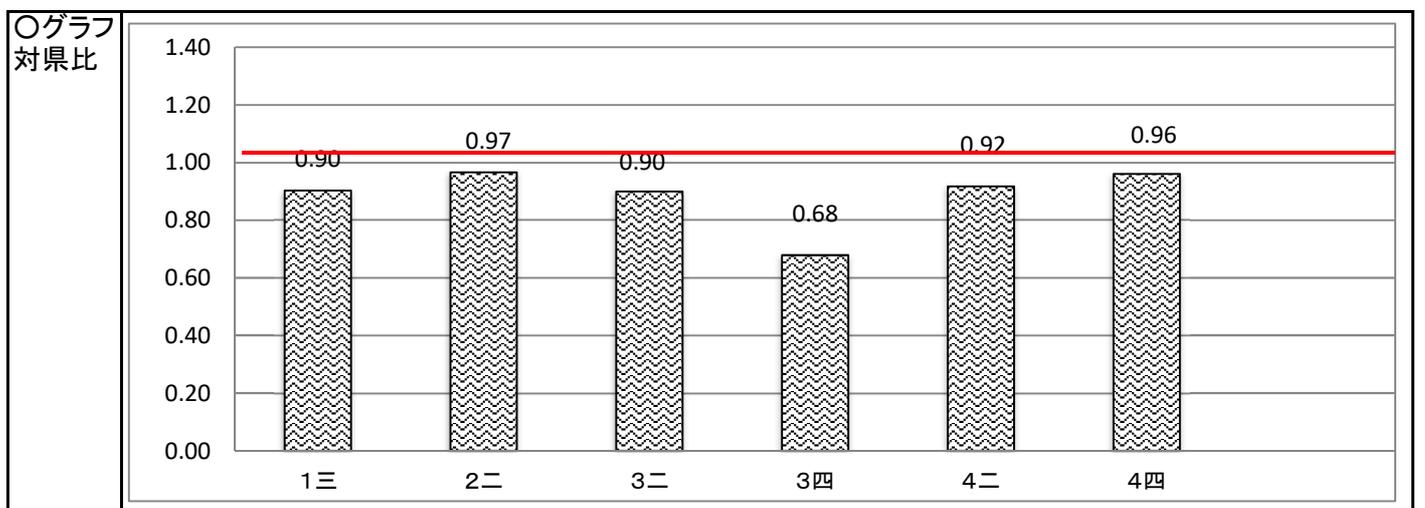
◆ 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果 《中学校・国語科》 ◆

■調査結果の概要

	問題の結果																								
○全体	<p>佐賀市の平均正答率是对全国比で0.94であり、全14問中で全国平均を上回ったのは3問である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61</td> <td>64.6</td> <td>0.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 佐賀市の平均は整数値で示されています。</p>	佐賀市	全国	対全国比	61	64.6	0.94																		
佐賀市	全国	対全国比																							
61	64.6	0.94																							
○評価の観点	<p>5つの観点で全国平均を下回っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語への関心・意欲・態度</td> <td>51.6</td> <td>56.0</td> <td>0.92</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く能力</td> <td>78.4</td> <td>79.8</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>書く能力</td> <td>54.6</td> <td>57.1</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>読む能力</td> <td>44.0</td> <td>48.5</td> <td>0.91</td> </tr> <tr> <td>言語についての知識・理解・技能</td> <td>71.3</td> <td>75.1</td> <td>0.95</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点	佐賀市	全国	対全国比	国語への関心・意欲・態度	51.6	56.0	0.92	話す・聞く能力	78.4	79.8	0.98	書く能力	54.6	57.1	0.96	読む能力	44.0	48.5	0.91	言語についての知識・理解・技能	71.3	75.1	0.95
評価の観点	佐賀市	全国	対全国比																						
国語への関心・意欲・態度	51.6	56.0	0.92																						
話す・聞く能力	78.4	79.8	0.98																						
書く能力	54.6	57.1	0.96																						
読む能力	44.0	48.5	0.91																						
言語についての知識・理解・技能	71.3	75.1	0.95																						
○内容・領域	<p>4つの内容で全国平均を下回っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習指導要領の領域等</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話すこと・聞くこと</td> <td>78.4</td> <td>79.8</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>書くこと</td> <td>54.6</td> <td>57.1</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>読むこと</td> <td>44.0</td> <td>48.5</td> <td>0.91</td> </tr> <tr> <td>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</td> <td>71.3</td> <td>75.1</td> <td>0.95</td> </tr> </tbody> </table>	学習指導要領の領域等	佐賀市	全国	対全国比	話すこと・聞くこと	78.4	79.8	0.98	書くこと	54.6	57.1	0.96	読むこと	44.0	48.5	0.91	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	75.1	0.95				
学習指導要領の領域等	佐賀市	全国	対全国比																						
話すこと・聞くこと	78.4	79.8	0.98																						
書くこと	54.6	57.1	0.96																						
読むこと	44.0	48.5	0.91																						
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	75.1	0.95																						
○グラフ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>0.94</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度(観点)</td> <td>0.92</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(観点)</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>書く(観点)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>読む(観点)</td> <td>0.91</td> </tr> <tr> <td>言語(観点)</td> <td>0.95</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(領域)</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>書く(領域)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>読む(領域)</td> <td>0.91</td> </tr> <tr> <td>言語(領域)</td> <td>0.95</td> </tr> </tbody> </table>	項目	対全国比	国語	0.94	関心・意欲・態度(観点)	0.92	話す・聞く(観点)	0.98	書く(観点)	0.96	読む(観点)	0.91	言語(観点)	0.95	話す・聞く(領域)	0.98	書く(領域)	0.96	読む(領域)	0.91	言語(領域)	0.95		
項目	対全国比																								
国語	0.94																								
関心・意欲・態度(観点)	0.92																								
話す・聞く(観点)	0.98																								
書く(観点)	0.96																								
読む(観点)	0.91																								
言語(観点)	0.95																								
話す・聞く(領域)	0.98																								
書く(領域)	0.96																								
読む(領域)	0.91																								
言語(領域)	0.95																								

■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
1 三	話す・聞く	思・判・表	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることに課題がある。話合いのやりとりを踏まえ、誰がどのように発言をすればよいのか答えることやその理由まで説明することができていなかった。
2 二	書く	思・判・表	書いた文章を互いに読み合い文章の構成の工夫を考える	「意見を述べる」「具体例を示す」「反論を想定する」などの学習用語を用いながら、段落の役割を理解し、段落相互の関係を捉えることに課題が見られた。また、本設問が記述式であったため、無解答率も高かった。段落の役割が理解できていても、「複数の段落に着目して」「(具体的に)段落の番号を示しながら」書くという解答の条件を満たすことができていない。
3 二	読む	思・判・表	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することに課題がある。本設問は、選択式であったため、無解答率は低かったが、誤答が多く見られた。会話文と地の文を読み分けて動作の主体を捉える、場面の展開の中で動作の主体を捉えることに困難がある。
3 四	読む	思・判・表	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	文章中のものの見方や考え方が表れている部分を明確にすることに課題がある。本設問は記述式であり、無解答率が極めて高かった。誤答として多かったのは、文章の一部から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書くことである。評価している表現を文章の中から見つけることが出来ず、適切に引用して書くことに課題が見られた。
4 二	言語の特徴	知・技	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	事象や行為などを表す語句について、生活の中の様々な場面や状況に応じて適切に使うことに課題がある。「随時」の言葉の意味を理解しておらず、「次第に」という意味を持つ「漸次」を選んだ誤答が多かった。「随時」という言葉になじみがないことや、他の語句の意味との区別ができていない生徒が多かったと推察される。
4 四	書く	思・判・表	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	電子メールでのやり取りを想定した出題であったが、無解答率が高かった。伝えたい内容2点を盛り込むこと、回答が得られるように相手に依頼する文章を書くこと、適切な敬語を用いながら失礼のないよう配慮することなど、複数の条件を満たした文章を書くことに課題が見られた。



■調査結果の分析【指導改善について】

○ 話すこと・聞くことの指導の工夫

話すこと・聞くことについては、3つの設問中2つは全国平均を上回っているが、「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える(記述式)」の設問において正答率が低く、無解答率も高い結果になっている。記述式の設問に対しては、理由を書くなどの条件を満たして書くことができていなかった。

指導にあたっては、話合いの中で、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることが重要である。話題や展開を捉えながら話し合うためには、司会だけでなく参加者全員が何についてどのような目的で話し合っているかなどの到達点を常に意識するような指導が求められる。育成したい目指す力に特化したコンパクトな単元を構想し、話合い活動に限らず、プレゼンテーションや発表をする際にも、聞き手はメモを取ったり評価をしたりする活動を設定し、話題や話の展開を捉えられるようにするなどの工夫が求められる。また、他領域や他教科等との連携も視野に入れ、話合い活動を充実させていく必要がある。

○ 書くことの指導の工夫

書くことについては、段落の役割を明確にしながら段落相互の関係を理解すること、社会生活の様々な場面を想定した実用的な文章を書くことに課題が見られた。同時に、記述式の設問に対する無解答率が高く、「書く」ことへの抵抗感を軽減させることが急がれる。

指導にあたっては、段落の役割を明確に理解させるために「さらに」「たとえば」「ところが」「一方」などの接続詞を適切に用いたり、見出しをつけたりする言語活動を授業の中で設定すること、また、ポスターやちらし、案内状、リーフレットなど多様な様式に、必要な情報をもれなく書けるよう例を示しながら指導することが効果的である。さらに、単元の中に「書くこと」を位置づけ、書いた文章を互いに読み合う際には、「構成の検討」「考えの形成」「記述」など当該学年で最も重視している内容にポイントを絞り、単なる印象ではなく具体的な部分や事柄を上げて助言するよう指導することが重要である。また、他教科の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり反応を受け取ったりすることのできるような指導の工夫が必要である。

○ 読むことの指導の工夫

読むことについては、4つの設問全てにおいて、全国平均正答率を下回っている。また、記述式解答における無解答率の高さも課題である。文学的文章において、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること、また、ものの見方や考え方が表れている部分を明確にして、自分の考えをもつことに課題がある。

指導にあたっては、文学的文章を読んで自分の考えをもつために、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように対話活動等を用いて授業を展開する必要がある。その上で、自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを、自分の考えを書いたものを読み直すなどして振り返ることで、改めて自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。また、これまで読み継がれてきた代表的な作家の作品を取り上げ、表現や背景に着目して豊かに読み味わう学習活動を展開し、他の様々な作品に対する興味・関心を喚起することも必要である。

○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導の工夫

言語事項については、「詳細」という漢字の読みを答える設問や敬語の設問においても正答率が低かった。事象や行為などを表す語句については、生活の中の様々な場面や状況に応じて適切に使うことができるよう指導していく必要がある。

指導にあたっては、まずは語彙を増やすことが大切である。生活の中や文脈の中で語句を適切に使うためには、その語句の意味を理解したうえで、場面を設定し、目的や意図に応じて適切な表現を考えるなどの学習活動が考えられる。辞書等を使った意味調べに終始せず、メールでの場面や面接で目上の人と話す場面等、実際に使用する場面を設定することが有効であると考えられる。また、佐賀市で取り組んでいる「言葉を広げよう」を活用し、似た意味をもつ語句を調べたり、複数の語句を比べたりして、どの表現が最もふさわしいかを検討するような、語感を磨く活動も有効であると考えられる。

■評価の観点については、以下のように表記しています。

■内容・領域については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
知識・技能	知・技
思考・判断・表現	思・判・表

内容・領域	表記
言語の特徴や使い方に関する事項	言語の特徴
話すこと・聞くこと	話す・聞く
書くこと	書く
読むこと	読む

◆ 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果 《中学校・数学科》 ◆

■ 調査結果の概要

	問題の結果																				
○全体	<p>・ 佐賀市の平均正答率は、全国平均より2.2ポイントほど下回っている。全16問中、全国平均を上回ったのは5問であった。ポイントでは一昨年より若干の向上が見られるが、無答率が全国平均より少なかったのは16問中3問で、問題に対して粘り強く取り組む姿勢が一昨年に比べて課題となっている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55</td> <td>57.2</td> <td>0.96</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 佐賀市の平均は整数値で示されています。</p>	佐賀市	全国	対全国比	55	57.2	0.96														
佐賀市	全国	対全国比																			
55	57.2	0.96																			
○評価の観点	<p>・ 「数学的な考え方」「数学的な技能」と「数量や図形などについての知識・理解」について出題され、本年度は3観点とも全国平均を下回っており、特に思考力を育成するための授業改善などが必要である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>考え方</td> <td>38.7</td> <td>41.1</td> <td>0.94</td> </tr> <tr> <td>技能</td> <td>77.3</td> <td>77.7</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>知・理</td> <td>63.5</td> <td>65.6</td> <td>0.97</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点	佐賀市	全国	対全国比	考え方	38.7	41.1	0.94	技能	77.3	77.7	0.99	知・理	63.5	65.6	0.97				
評価の観点	佐賀市	全国	対全国比																		
考え方	38.7	41.1	0.94																		
技能	77.3	77.7	0.99																		
知・理	63.5	65.6	0.97																		
○内容・領域	<p>・ 4つの領域で本年度は全国平均を下回った。特に全国平均と比べると、「図形」で3ポイント、「関数」については4.1ポイント下回った。「図形」「関数」の領域で特に指導方法の改善のための具体的手立てが必要である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容・領域</th> <th>佐賀市</th> <th>全国</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数と式</td> <td>62.0</td> <td>63.8</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td>69.4</td> <td>72.4</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>関数</td> <td>36.7</td> <td>40.8</td> <td>0.90</td> </tr> <tr> <td>資料</td> <td>54.9</td> <td>56.3</td> <td>0.98</td> </tr> </tbody> </table>	内容・領域	佐賀市	全国	対全国比	数と式	62.0	63.8	0.97	図形	69.4	72.4	0.96	関数	36.7	40.8	0.90	資料	54.9	56.3	0.98
内容・領域	佐賀市	全国	対全国比																		
数と式	62.0	63.8	0.97																		
図形	69.4	72.4	0.96																		
関数	36.7	40.8	0.90																		
資料	54.9	56.3	0.98																		
○グラフ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th>対全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>考え方</td> <td>0.94</td> </tr> <tr> <td>技能</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>知・理</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>数と式</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>関数</td> <td>0.90</td> </tr> <tr> <td>資料</td> <td>0.98</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点	対全国比	考え方	0.94	技能	0.99	知・理	0.97	数と式	0.97	図形	0.96	関数	0.90	資料	0.98				
評価の観点	対全国比																				
考え方	0.94																				
技能	0.99																				
知・理	0.97																				
数と式	0.97																				
図形	0.96																				
関数	0.90																				
資料	0.98																				

■ 「評価の観点」や「内容・領域」については、以下のように表記しています。

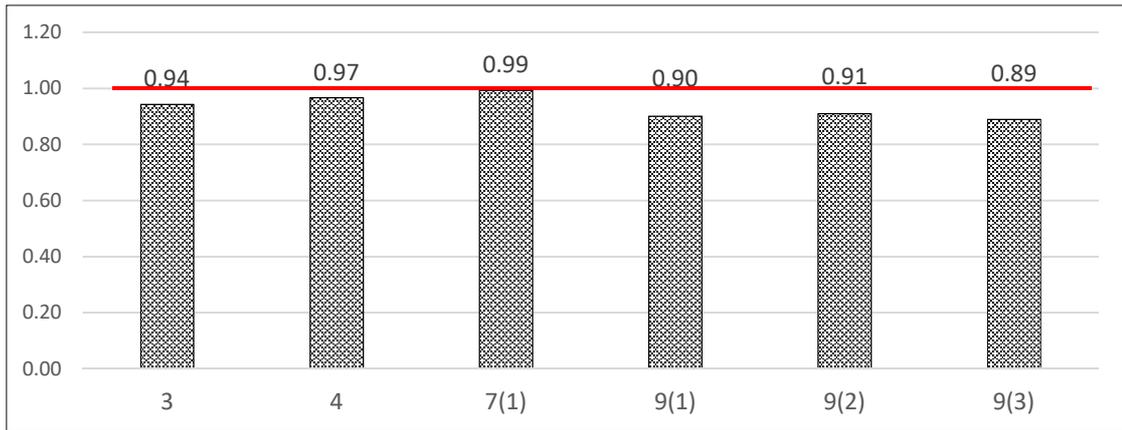
評価の観点	表記
数学的な見方や考え方	考え方
数学的な技能	技能
数量や図形などについての知識・理解	知・理

内容・領域	表記
A 数と式	数と式
B 図形	図形
C 関数	関数
D 資料の活用	資料

■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分析
3	図形	知・技	扇形の中心角と弧の長さの関係を理解している。	扇形の中心角から弧の長さが円周の何倍になるかを求める問題。昨年度も扇形の問題が出たが、今年も定着には課題が見られた。 $l=2\pi r \times x/360$, $S=\pi r^2 \times x/360$ の公式については、意味を理解せずに暗記するのみになっている。小学校で学習した円の公式を使いながら、扇形が円の何分のいくつになるのかを繰り返し指導することで、公式の意味の定着が図られると考える。
4	関数	知・技	事象の特徴を的確に捉えることができることと、関数の意味を理解していること。	関数の意味を問う問題。比例、反比例の意味は理解している生徒は多いが、関数の意味を正確に理解している生徒が少ない。知識・技能を問う問題の中では、無解答率も高くなっている。まずは、身の回りの関数関係やブラックボックスを使った例を通して、意味を理解させる必要がある。また、①と②の言葉が逆だった生徒も見られた。逆の場合は、影の長さを1つ決めても経過した時間が1つに決まらないことから、関数関係にはならないことが分かる。2つの数量関係が、関数関係にあるか否か、理由も含めて自分の言葉で表現できるようにしていくことが重要である。
7 (1)	関数	知・技	与えられた情報を読み、事象の特徴を的確に捉えること。	条件を読み取り、グラフ上のあてはまる点を選ぶ問題。正答率自体は他の問題よりも高いが、全国や佐賀県平均を下回っている。表からグラフをかく際に、常に横軸(x軸)や縦軸(y軸)が何を表しているか、確認させることが重要である。実験データを扱う授業では、理想化・単純化することで、比例や一次関数とみなすことができ、数学的に解決できる「よさ」を意識させたい。数学が役に立つ意識を高めさせていきたい。
9 (1)	図形	思・判・表	四角形が平行四辺形になることと理由を説明できる。	平行四辺形になることを証明する問題。平行四辺形になるための条件を覚えていても、実際に証明の中でうまく活用できていない。与えられた条件から、何が使えるのかを意識させることが重要である。また、穴埋め問題からでもいいので、証明の仕方を定着させることが大事である。さらに、1通りの方法だけではなく、他の方法でも証明できないか、常に生徒に問いかけることで、生徒自身の考えが広がっていくと考える。
9 (2)	図形	思・判・表	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している。	錯角が等しくなるのは平行条件があるからであることを述べさせる問題。同位角や錯角はいつも等しいと錯覚している生徒が多く見られた。同位角や錯角は一般には等しくないこと、2直線が平行のときに初めて等しくなることを、常に意識させておくことが大事である。また、2直線が平行になるための条件として、同位角、錯角の大きさが使われることも確認させておく必要がある。その際に、「FE//BCより、 $\angle FAP = \angle PBD$ である」のように、証明では必ず根拠を書くように徹底させたい。
9 (3)	図形	思・判・表	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。	平行線の性質から角度に関する関係を導く問題。平行条件から(2)の問題と同じように考えると $\angle ARG = 105^\circ$, $\angle ASG = 75^\circ$ になるのは分かる。しかし、三角定規を移動させると角度も変化してしまうと誤解した生徒が見られた。また、問題文が長く、必要な条件を見つけることができなかつた生徒もいた。(2)と何が違って、何が変わらなかったのかを見抜く力が必要である。日頃から与えられた問題を数学の授業において解く際に、証明の仮定や結論を少し変ることで、何が変るのか、何が変わらないのかを常に意識させて、証明に取り組ませることが重要である。

○グラフ



■調査結果の分析【指導改善について】

○図形領域の分析及び指導改善

- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係を問う【3】では、佐賀市平均正答率は64.2%で県平均を2.0ポイント下回った。扇形が円の一部であることと、扇形の弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することの理解が不十分であることが考えられる。授業では、単に公式の暗記で終わらないように、半径が等しい円と扇形を比較し、中心角の大きさと弧の長さや面積の関係を見いださせたり、半径を一定にして中心角を様々な大きさに変えた扇形の弧の長さや面積を調べさせたりするなど、観察や操作活動を通して扇形の中心角と弧の長さや面積を関連付ける指導をしていくことが大切である。
- ・四角形が平行四辺形になることの理由を説明する【9】(1)では、佐賀市平均正答率は39.9%で県平均を0.2ポイント上回ったが、正答率は低く、理由を説明することに課題が見られた。予想した事柄が成り立つことを説明するためには、まず何を示せばよいのかを明らかにすることが大切である。そこから着目すべき性質や辺や角の関係を見だし、根拠を明らかにして説明し合う活動を通して、筋道を立てて事柄が成り立つ理由を説明することができるようになっていくと考えられる。このような学習活動の場面を日頃から設定することが授業において大切である。
- ・錯角が等しいことの根拠となる2直線の位置関係を問う【9】(2)では、佐賀市平均正答率は58.5%で県平均を0.9ポイント上回った。しかし、無解答率は16.9%、2直線が平行であることを適切に表現できていない解答が17.3%と、数学的に表現することに課題が見られた。授業では、結論が成り立つための前提がわかるだけでなく、それを数学术語を用いて説明し合ったり、記号を使って適切に書き表したりすることを通して、数学的に表現する力を身につけることができる指導が必要である。
- ・ある条件の下で成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現する【9】(3)では、佐賀市平均正答率は25.2%と県平均を0.4ポイント下回った。また無解答率も33.4%と高く、さらに誤答例には、角の大きさについていってもいえることを見いだせなかったり、角の大きさではなく位置関係を答えたりするなど、質問の意味を理解できていない例も多かった。授業において図形の性質を考察する場面では、条件を変えて発展的に考察させることが大切である。その際、ICTを活用して図形を動かしたり、形を変えたりするなどの視覚的な支援も有効である。このような観察や操作活動を通して新たな図形の性質を見いだす力を高め、数学术語を使って根拠を明確して成り立つ事柄を説明し合う学習活動を取り入れることで、数学的に表現する力を高めていく指導が大切である。

○関数領域の分析及び指導改善

- ・「○○は△△の関数である」という形で表現させる関数の意味の理解を問う【4】では、佐賀市の平均正答率は46.4%(無解答率11.1%)で全国平均を1.6ポイント下回り、関数についての基本的な理解が定着していない。○○と△△が逆になった解答が29.3%あることから、独立変数と従属変数の違いを区別できていないことが要因と考えられる。授業においては、関数の意味を理解するために、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの関係を見いだす活動を重視することが大切である。その際、二つの数量の変化や対応の様子に着目し、独立変数と従属変数との違いを考察する場面を設定し、理解を深める必要がある。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することを問う【7】(2)では、全国平均を0.3ポイント上回ったものの佐賀市の平均正答率が28.0%(無解答率27.5%)で、数学的に考え、説明する記述の力に課題が見られる。説明や記述することへの抵抗感や自信のなさが無解答率の高さにもつながっている可能性がある。授業では、ペアやグループで協同的に問題を解決したり、問題解決の過程を振り返ったりする上で、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりする活動を取り入れることも有効であると考えられる。その際、「用いるもの(表・式・グラフ)」を明確にした上で、その「用い方」の2つの事項を明らかにすることを大切にし、記述する力を高めていく必要がある。